

小倉記念病院 循環器内科日より

# つなぐ

Vol.7  
2016.1月

今から十八年前、当院で働く一人の若者がいた。  
名は、吉田善紀。

研修医時代も含め、循環器内科医として四年在籍。  
しかし彼は、術から研究の道へと方向転換。京都へ向かう。  
後の京都大学iPS細胞研究所（サイラ）である。  
そして、iPS細胞（人工多能性幹細胞）誕生に  
大きく関わることになる。

人間万事塞翁が馬。もし、研究の道を志さなければ、  
再生医療の道は、より遅れていた可能性がある。  
自分の道を求めることで、医療の未来を切り開いた。  
そうした才能にしっかり目を配り、輩出していくことも、  
医学の進歩に大切なことである。

来る一月、彼は当院で自分の研究と再生医療について語る。  
循環器内科で培った技術や知識は今、  
心筋再生という分野につながり、活かされようとしている。



第16回 小倉循環器内科セミナー

# iPS細胞と 心筋再生

参加費  
無料

○日 時／1月27日(水) 19:00～20:30

○場 所／小倉記念病院 4F 講堂

北九州市小倉北区浅野3-2-1

ヒトやマウスの胚から樹立されたES細胞は、分化多能性を維持しつつ増殖することが可能です。体細胞にリプログラミング因子 (c-Myc, Oct3/4, SOX2, Klf4) を導入することにより、ES細胞のような分化多能性を持つiPS細胞を誘導することが可能であることが明らかになりました。iPS細胞は現在、再生医療などへの応用が期待されています。iPS細胞はさまざまな種類の体細胞から樹立することが可能で、また樹立する方法も多様な方法が報告されています。しかしこれらのiPS細胞とES細胞はその性質が全く同一ではなく、また細胞株間でも性質は異なると考えられます。講師の吉田先生はES/iPS細胞由来の心筋細胞および血液細胞を用いた臨床応用(再生医療、創薬、疾患研究)を目標に取り組んでおられます。

主催/小倉記念病院 循環器内科



写真提供/京都大学iPS細胞研究所



京都大学  
iPS細胞研究所 講師  
未来生命科学開拓部門  
**吉田 善紀**  
Yoshida Yoshinori

## 〔研究テーマ〕

1. 分化成熟制御法の開発  
～再生医療のための心筋・血液細胞の作製法の開発～
2. 疾患特異的iPS細胞研究
3. ES/iPS細胞株の分化能を規定している  
メカニズムの解明

## 〔プロフィール〕

1997年 京都大学医学部 卒業  
1997年 京都大学医学部附属病院勤務(研修医)  
1998年 社会保険小倉記念病院内科勤務(研修医)  
1999年 社会保険小倉記念病院循環器科勤務  
2002年 京都大学大学院医学研究科博士課程(内科系専攻)入学  
2006年 京都大学医学部附属病院循環器内科 助教

2007年 京都大学大学院医学研究科博士号取得  
2008年 京都大学 再生医科学研究所再生誘導研究分野 研究員  
2008年 京都大学 物質-細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センター 研究員  
2009年 京都大学 物質-細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センター 助教  
2009年 京都大学 物質-細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センター 講師  
2010年 京都大学 iPS細胞研究所 講師

参加  
方法

1月22日(金)迄に、同封しておりますセミナー参加申込用紙に、必要事項をご記入の上、  
小倉記念病院 医療連携課までFAXにてご返信ください。医療連携課 FAX.0120-020-027



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号

TEL.093-511-2000(代表)